

No.001

2016.4.5

http://worldly-design.jp

ま.ば.ら ペイパー



まばらぼ

ma.ba.lab

約5ヶ月にわたる工事も、4月20日ごろには終了いたします。
ご近所のみなさまには、長らくご迷惑をおかけいたしました！

そろそろ完成です。

工事、もうちょっとです

昨年12月21日からはじまった工事も、4月20日ごろには終了の見込みとなりました。ご近所のみなさまには、長らくのご迷惑をおかけして参りましたが、あともう少しです。冬の間じゅう、大きな車の行き来や、業者さんや職人さんの出入り、工事の音などで、落ち着かない日中だったかと思いますが、いろいろとご協力いただき、ありがとうございました。

思い起こせば工事開始の10日前、工事の安全祈願と清祓いをしていただいた日は、海からの雨風がビュンビュン吹き込む、大荒れのお天気でした。ちゃんと無事にリノベーションができるのか不安でいっぱいだったあの日。古い町家の改修は、壁をはぐってみなければ分からないことも多いため、実際にどのくらいもとの土台を活かせるのか、昔ながらの工法を守りつつも、予算の面でどこまでやるのかというの、すべて未知数で

した。一方で、伝統工法に敬意を払いながら確かな仕事をされてきた職人のみなさんが関わってくださっていることが、拠り所でもありました。

壁がない!?土台がない!?

そして、いざ工事が始まると、思わぬものがいっぱい出てきました。内装材をはぐってみると、壁や断熱材がなく、内側から外壁のトタンがあらわになったり、大事な柱を支える礎石がコンクリートブロックだったと判明したり…。もともと人口密集地だった場所なので、増築も複雑そのもの。家と家がくっついているので外壁をつけずに済ませている場所もあり、こちらの内壁を取り払ったらお隣の内壁がむき出しになったりして。

ほぼ毎週、現場にお邪魔していたので、新たな問題が発覚しては、次の週にはそれがちゃんと解決している様を見てきました。こういう改築は、どんな事態が起ころうとも何とかしてやるぜ!という職人魂と技術がないとまず無理だと、感じま

した。職人さん、最上級にリスペクトです!!

いろんな記憶が出てきました

お仏壇のあったところの壁には、もとの家主さんの高木さんが昔お米屋さんだったときの記憶が残っていました。壁を補強するため、もう使わなくなった和紙を貼られたのだと思います(写真1)。

立派な蔵の中には、たくさんの着物や塗物がありましたが、一部利用するものをのぞいて、寄付したり処分したりしました。工務店さんが未使用の蚊帳を見つけられ「これ取っとかれ!」と渡してくださいました(写真2)。さあ、どこで使おうかな…。そして、職人さんたちみなさんが驚いておられたのが、土蔵の床下から出て来た大量の砂(写真3)。県西部を中心に活動していらっしゃるみなさんにとって、このような蔵のつくりは大変珍しいそうです。砂はもちろん、奈呉の浦(富山湾)の砂浜から持って来たものだと思いますが、蔵の中に敷くことで、湿気取りの役割を果たしていたのではないかと推測をしています。蔵の中の砂は一度全部出し、通り土間の土台に活用させていただきました。前から飾ってあった曳山まつりのポスターは、工程が変わる度に貼られる場所を変えながら、ずっとこの工事を見守ってくれています(写真4)。完成した後も、絶対どこかに貼っておきたいと思っています。

ということで、ちょっとずつですが事務所&コミュニティスペースらしくなってきました。4月17日には、頼もしき職人さんに指導いただき、土壁塗りワークショップも開催予定です。ご興味あればぜひご参加ください(要事前申込み)。

株式会社 ワールドリー・デザイン
代表取締役 明石あおい

正面間口の変遷



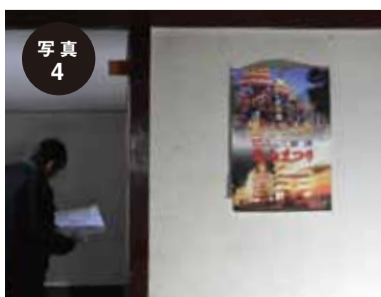
【リノベ前】アルミサッシを入れるため、1階の屋根は持ち上げられていました。また、道路際ギリギリに玄関がつくられていました。



【リノベ中】玄関口をセットバックして、元の間口に戻すため、アルミサッシと1階部分の屋根を取り除きました。



【リノベ中】玄関口の建具を入れるため、新しく柱や鴨居を取り付け、建築当初のデザインに近い屋根を再現。あとはさまのこが入ります。



リノベの記録

2015.12/11~2016.4/1

旧高木邸は約80年前に建築されたもの。世代を越えて住み継がれてきたこの家は、時代や生活様式の変化に応じて改築&増築が重ねられてきました。さまのこのある正面間口、玄関を入ったところの土間、玄関から家の奥までつながる通り土間など、当初あったであろう意匠を再生しています。

【新湊オフィスプロジェクト】設計・監理：(有)濱田修建築研究所
 施工：藤井工業(株) プロデュース：(株)地域交流センター企画

通り土間の変遷



かさ上げた廊下の壁や天井は化粧板で、壁や天井は化粧板で、壁や天井は化粧板でおおわれていました。

化粧板を取り除くと、昔ながらの木の柱と漆喰壁が現れました。

通り土間に再生。蔵の床下にあった砂を敷き詰めました。

砂利とコンクリートを敷いて、通り土間の基礎が完成!

天井板を張り、壁の下地を整えて土壁に塗り直しました。

<p>2015.12/11 清拭い</p> <p>内川周辺の惣社・放生津八幡宮の大神宮司に、工事の安全祈願と清拭いをしていただきました。</p>	<p>2015.12/21 リノベ開始</p> <p>柱と梁、土壁を残し、化粧板や天井板などを外します。壁を取ったお隣が見えてびっくり!</p>	<p>2016.1/13~20 蔵の砂</p> <p>蔵の床下から大量の砂が!取り除いて床の基礎を作りかえ。砂は通り土間に敷き詰めました。</p>	<p>2016.1/中旬~ 基礎が!</p> <p>柱を支える基礎がコンクリートブロック!束が抜けたので応急処置をした形跡も発見(汗)!</p>	<p>2016.2/中旬 まばらぼ</p> <p>コミュニティスペースにらせん階段が。隣接した家の隙間から雨が吹き込んでいたのが判明!</p>	<p>2016.3/月上旬~ 壁のこと</p> <p>室内は若草色の土壁に。キラキラの砂壁の下に薄桃色の壁が出て来た部屋の壁はそのままに。</p>
--	--	---	--	---	---

Worldly Design 文系&アート系の女子6人でやっています。今回は、最近読んだオススメ本をご紹介します!

代表取締役 明石 あおい

「手入れという思想」 養老 孟司
 「これをするぞ!」と強く思わずに、無意識でやり続けることに、芯に大切なものが隠されている気がする。毎日、ペラペラに薄い生き方をしているなど再確認し、反省いたしました。(2013/10/28 新潮社)

「あの家に暮らす四人の女」 三浦しをん
 大学で同じクラスだったしをんちゃんの作品はすべてチェックしている。「善福丸」が登場したところからの展開にじびれた。次元の違うプロのサービス精神を垣間見た気分。(2015/7/9 中央公論新社)

omoshii担当 坂本 理恵

「ログ・ホライズン(6)夜明けの迷い子」 橙乃 ままれ
 剣と魔法のゲームの世界に閉じ込められる異世界冒険譚。ソーシャルゲームがゲームじゃなくなったら社会になるよね?という話。策略で新世界を生き抜いていく主人公を尊敬。なぜか仕事の仕方はこのシリーズで勉強しています。(2013/3/30 KADOKAWA/ エンターブレイン)

「民主主義ってなんだ?」 高橋源一郎、SEALDs
 デザインの仕事をしているので、シールズが出てきたときは「おっ?」て思った。彼らの正体がわかる本。それにしても、人類の歴史をかけて作られた民主主義はハードルが高い!!(2015/9/18 河出書房新社)

pokapoka担当 小林 麻衣

「人生の旅をゆく」 よしもと ばなな
 よしもとばななさんの、不器用だけど愛嬌のある母性と、心の純粋さ、賢さがひしひしと伝わる一冊でした。文章を読みながら泣けて泣けて仕方ありませんでした。(2009/4 幻冬舎)

「あこがれ」 川上 未映子
 自分が小学生のころ、いろんな場面で(特に学校の帰り道とかで)「この瞬間の心の動きを絶対に、大人になってからも忘れないぞ」と決意した、たわいなくも崇高な気持ちを思い出した。結局、色彩感覚や美的感覚もその頃と大差ないって、確認するみたいな感じでした。(2015/10/21 新潮社)

oishii担当 橘川 絢花

「我が家の問題」 奥田 英朗
 読書が苦手な私でもスッと読めた短編集。家族という絶対に傷つけない身近な存在だからこそ、向き合い方に悩みます。今いる家族に想いを寄せ、未来の家族に想いを馳せることができました。(2014/6/25 集英社)

tekuteku担当 大里 泉

「ありがとう、さようなら」 瀬尾 まいこ
 瀬尾まいこさんが中学校の先生をされていた時のエッセイ。先生と生徒の関係ですが、まるで友達とのできごとのように描かれている感じがして、とても好きでした。読んでるとにやにやしたり、ちょっと泣いたりして幸せな気持ちになりました。(2010/10/25 メディアファクトリー)

(見習い中) 高木 真依子

「子どもたちは夜と遊ぶ」 辻村 深月
 久しぶりに読んだ大好きな辻村さんの本。何かの節目にごほうびとして読むことも。ファン歴も浅いし、違う本も読むので網羅!とまではいかなけれど、やっぱり読むとあったかくなる辻村作品。下巻の目次見たときに「うわ、先に真相知っちゃったよ。何だよ」と思ったけれど、やっぱり辻村さんはすごかった。天晴れ。ポロ泣き。(2012/12/3 講談社文庫)

“Worldly(ワールドリー)”とは「世間」という意味。世間の“Design(デザイン)”をする会社です。

株式会社ワールドリー・デザインは、まちづくりとデザインの小さな会社です。現在は総勢6名の女子でやっております。お仕事は、地域活性化のための戦略づくりや、パンフレットや読み物づくりなどが中心です。自分たちの足で出向き、お話をうかがい、その場所やその人にしかない瞬間や魅力を、引き出すお手伝いをしています。全員が、県外出身者もしくは県外在住経験者で、「富山の当たり前」に驚く毎日です。日頃食べているもの、お祭り、慣習など、その地域では普通

にしていることが、私たちにはとても珍しくて、有り難くて宝物のようにキラキラ輝いて見えるのです。「当たり前」の反対は「有り難い」。地元のみなさんと一緒になって魅力を発見し、磨く活動を、富山県内を中心に活動しております。お客様は県や市などの自治体、地元企業さん、個人の方などさまざま。名刺1枚から、地域全体のPRやブランディングまで、みなさんと最初から考えて、よいもの、長く楽しく使えるものを作るお手伝いをさせていただいております。

— 最近のおしごと —

富山県定住促進サイトほか (2016.3)
 富山県が推進している「暮らしたい国、富山」の取り組み。Webや冊子などを作成しました。

安納芋ポタージュパッケージ (2016.3)
 高岡市福岡町の新名物、安納芋を焼いてポタージュにしたごちそうスープのパッケージ。

CUCINA MARINARA DI IMIZU (2016.3)
 有名イタリアンシェフ・山根大助氏監修。新湊食材を使った特製レシピ本!(A5版冊子)

新湊街道さんぼ (2016.2)
 射水商工会議所の「新湊歴史ヒストリアシリーズ」第2弾。第3弾も企画中!(A5版冊子)